

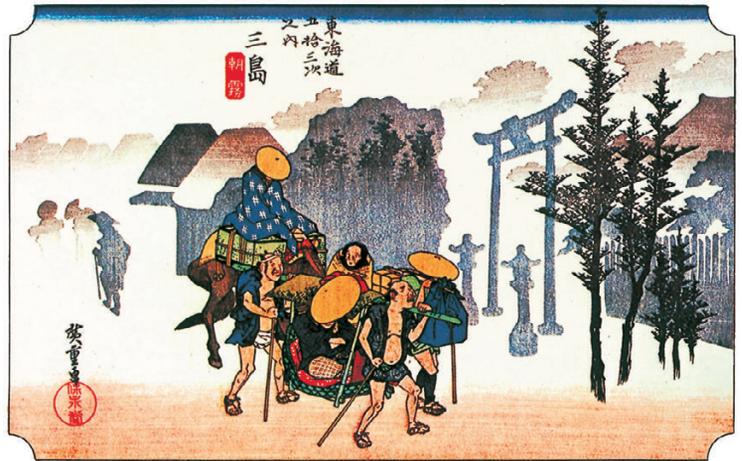


R I. 第2620地区 静岡第2分區
三島西ロータリークラブ

週報

第2102号

事務所 静岡県三島市中央町4番9号 2F
TEL(055)976-6351 FAX976-6352
例会場 静岡県三島市本町6-35 呉竹
TEL(055)975-3210
会長 栗原 達治 幹事 藤江 康儀



広重版画より 三島 朝霧

第2165回例会

2017.6.15晴

司会 矢岸克行君

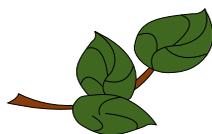
ロータリーソング 「日も風も星も」
指揮 古川喜仁君

会長挨拶 副会長 西本和夫君

とうとう私の会長挨拶の練習は本日が最後となりました。もう七月が目の前まで迫っています。今は栗原会長、藤江幹事が羨ましいかぎりです。

先日、あるバスト会長より第2620地区と言うのをニイロク・ニイマル地区と断言してはいけないと聞きました。20年間在籍して疑問に思った事はありましたが今まで知らないで過ごしてきました。言葉と活字とは全然違う事があります。汚職事件とお食事券などは聞いた人によって意味が変わってきます。矢岸さん、藤江さん、橋本さんは汚職・事件と聴こえると思いますが伊丹さんではお食事・券と聴こえると思いますが、逆かもしれません。

私達の年代で通じる「えもんかけ」「チャック」「モーター」「ズック」などは今の若者には通じない言葉になっています。また「お勝手」「どてら」「帳面」「はいちよう」などが分かる人は残念ながら年配者という事です。ショックを受けた方がいましたら申し訳ありません。



出席報告

	出席総数	出席率	メークアップ	修出席正率
前々回	36/40	90.00%	39/40	97.50%
今回	35/42	83.33%	会員総数	47名

欠席者 遠藤(正)君、大石君、木村君、窪田君、須田君、橋本君、古屋君

表彰



マルチプル・ポール・ハリス・フェロー 亥角裕己君

幹事報告

幹事 藤江康儀君

- ①小野金彌さん名誉会員になりました。
- ②6/29(木)サヨナラ例会出欠を22日まで。
- ③テーブル会請求がある方は早めに提出のこと。
- ④ガバナー月信に須田さん・赤池さん新会員紹介、西ロータリー-45周年事業掲載されています。ご一読下さい。

2016~2017年度
国際ロータリー会長
ジョンF.ジャーム

人類に奉仕するロータリー

クラブ協議会

SAA

矢岸克行君

年度初めは委員長矢岸、副委員長柴崎さん、委員に古川さん、石井彰さん、石井良衛さんの5名でスタートしました。当初はプケ東海、それが3月末で会場が閉鎖され、以後は呉竹さんになりました。そして両石井さんが退会となり、以後私と柴崎さん、古川さんの3名で進行するようになり、委員が足りない時は他の会員の力を借り運営する事もありました。又、会の進行も多少早めに終わることもありましたが無事に期末を迎えることができ、会員各位のご協力に感謝します。

会員増強維持委員会

委員長 森崎祐治君

今年度は、会員維持・増強の関心を高めつつ、会員純増1以上を目指すことを目標に取り組んでまいりました。

会員の皆様の活動により、期初に石井彰君の退会がありました。古屋英将君、須田治夫君、赤池克斗君の入会があり純増2となりました。しかしながらその後小島辰夫君、石井良衛君の退会が続き本年に入って転勤による山口弘毅君の退会と後任の前田邦彦君の入会がありここまでで±0、増減なし、となってしまいました。

新規加入が4名あったものの退会者が同数あり、会員維持の重要さと難しさを改めて痛感させられました。またその他の若干名の候補者も入会まで至らず純増が達成できず、努力不足で誠に申し訳ありません。

次年度の委員会に候補者情報等を引き継いでこれからも維持増強に努めてまいりたいと思います。1年間ありがとうございました。

クラブ広報委員会

委員長 佐野宏三君

『広報』 本年度の活動計画は、地元メディアに積極的に情報を提供して、市民にロータリーに対する認識を高めてもらうことでした。静岡新聞に働きかけた結果、クラブの行事が6回も掲載されました。

7月 会長・幹事の氏名 8月 献血運動

10月 見晴フェスティバル

2月 IM 3月 苗栗派遣中学生

4月 創立45周年式典

ここ数年では、最多回数だと思います。

『週報』 5人の委員が月ごとに輪番制で担当しました。週報の原稿は事務局へメール送付が定着してきてきましたので、今後ともご協力をお願いします。

『雑誌』 委員長の卓話のみで、「ロータリーの友」への投稿のお願いや、興味深い記事の紹介も出来ませんでした。次年度に期待します。

クラブ管理運営委員会

委員長 前田博利君

本年度の例会プログラムは予定がかなり変更になりましたが、皆様のご理解とご協力により、スムーズな進行が出来ました。卓話も退会による変更がありましたが、卓話者の変更や例会の内容を変更することにより対応することが出来ました。本年は予め、数ヶ月前に卓話予定者に事前に確認することを徹底しました。

また、出席率は前半の4ヶ月平均が91.90%、中期の4ヶ月の平均が88.95%、後半の3ヶ月の平均が93.67%、一年間の平均出席率が91.31%と何とか90%以上をキープすることが出来ました。

またマイロータリーの登録者も23名とメンバーの半数の皆様に登録して頂きました。

皆様のご協力に心より感謝いたします。ありがとうございました。

親睦活動委員会

委員長 三田明宏君

本年度は「好意と友情を深めるか」というテーマのもと、資料配布・ゲストビジター・スマイルの受付・スマイル報告等の通常業務をはじめ、夜間親睦例会・親睦家族例会・クリスマス忘年家族例会・三島西ロータリークラブ45周年（祝賀会の部）そしてサヨナラ例会・慰労激励会を開催させて頂きました。また、本年度は例会内容の変更が多く調整に少々苦勞しました事も思い出の一つです。

お支え頂きました会員・会員ご家族の皆様そして事務局に心より感謝申し上げます。一年間誠にありがとうございました。

ロータリー情報委員会

委員長 伊丹秀之君

新会員が長く会員活動を楽しんでいただくためには、先ずロータリーとは何かを理解していただくことが第1と考えました。新会員がロータリー活動を十分に理解していただくために解りやすい、なじみやすい教科書がないか探してみたら大変解りやすい本にめぐり合うことが出来、早速数冊買い求めました。新会員にそれぞれ貸与いたしました。又、新会員の方々とはそれぞれオリエンテーションを実施しました。ロータリーの知識と自覚を深めていただいた事と思っています。

8月19日 例会終了後第1回情報委員会開催

1月19日 クラブフォーラムで情報委員会委員長としての卓話 ビデオ放映

2月6日 須田会員・古屋会員にオリエンテーション

5月7日 赤池会員にオリエンテーション

6月22日 前田会員にオリエンテーション

職業奉仕委員会

委員長 川名正洋君

本年度の職業奉仕委員会は私、川名正洋が委員長、鈴木正二副委員長、米山寛委員、宇田川委員の4名で、期当初に掲げた基本方針と活動計画に基づいて活動してまいりました。

今年度の活動は昨年4月の地区研修協議会で職業奉仕委員会の今年度クラブ内で4つの活動をしてくださいという話があり、それに基づいて活動しました。

4つの活動とは

- 1.職業奉仕月間中に職業倫理観について講和を聞く。
- 2.例会に出席してもらい、例会は相手から情報をとるということで職業奉仕のためにあるのだからということだそうです。
- 3.会員の事業所訪問をする。
- 4.職業奉仕についての話し合いの時間をもつ。

職業倫理観についての講和は10月28日の例会時に矢岸パスト会長にして頂きました。

平成29年1月29日(日)に静岡グランシップにおいて2680地区尼崎RCのメンバーで眼科医の田中毅さんが「職業奉仕の源流を求めて」というタイトルで講演を聴き職業奉仕の理念、He profits most who serves best「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」を理解し、事業及び専門職務の品位と道徳水準を高め社会から尊重される存在にするという認識を深めることができました。

また、会員事業所の訪問は3月14日に藤江会員が副議長を務める三島市議会の傍聴に行き藤江会員の議長職を見学という貴重な体験をさせて頂きました。

委員会の開催や活動計画の中でもできないことがありましたが、会員皆様のご協力により職業奉仕について学ぶことが多い一年でした。あらためて皆様のご協力に感謝申し上げます。

社会奉仕委員会

委員長 佐々木雅浩君

平成28年8月20日(日) 千葉慎二副委員長 担当
イトーヨーカ堂正面広場で、日本赤十字社による献血のお手伝いをし、お天気にも恵まれ受付人数47名をあげることが出来ました。20名余りの会員皆様の協力を得て、大成功に終了することが出来ました。

平成28年10月15日(土)16日(日)

大石裕之委員・山口弘毅委員 担当

前日、北上文化プラザで600人分のとん汁具材の前処理を、20名余りの会員皆様や奥様のお手伝いをいただき無事終了することが出来ました。特に、栗原達治会長ご夫妻には多大なご協力をいただき、また藤江康儀幹事ご夫妻には具材の調達のほか、数日前より里芋の皮むきやあく抜きをしていただきまして、深く感謝申し上げます。当日、見晴学園グラウンドにて、やきとり焼き、とん汁の調理と、ジュースなどの飲み物、おにぎり、に加えて、宇田川茂会員提供の甘酒を、600名余りの参加者に提供することが出来ました。絵画コンテストの表彰も野田和秀会員のお手配により無事終了することが出来ました。

平成29年3月23日(木)花房孝光委員 担当

ブケ東海三島西例会場で、日本盲導犬センター・普及推進部 池田義教氏による「盲導犬育成事業の実態と現状」と題して講演をいただきました。会員各位の事業所に募金箱設置のお願いをさせていただき、当日も参加会員の多額な募金が行われました。

一年間、全会員皆様のご協力に感謝申し上げます。

国際奉仕委員会

委員長 鈴木郁夫君

苗栗RCとの中学生交換研修事業は、本年度は中学生の送り出しの年にあたり、三島市から男女2名ずつ、清水町から女子2名、合計6名の中学生を派遣いたしました。3月9日の夜間例会でチャレンジテーマの発表を行い、3月18日から26日までの8日間苗栗に滞在いたしました。また4月13日の夜間例会で報告会を行いました。

主な反省点として、台湾到着が夜遅くになり、中学生たちの苗栗到着が深夜近くになったこともあり、羽田前泊や昼間の出発など日程を楽にするような配慮が必要ではなかったかという意見が委員会で出されました。

またこの事業には地区補助金が出ていますが、中学生を派遣するという事業は青少年奉仕の範疇にはいるということで、年齢制限や、派遣条件の内容が厳しくなり、通常の申請では補助金の支給が得られず、地区補助金委員会の判断で、奨学金を支給するという事で、受給することができました。今後に関しましては、中学生を受け入れる場合は問題はなさそうですが、これは地区補助金委員会からの要望としてという事ですが、派遣する年度は対象事業を代えるなどしてほしいとのことでした。事業の詳しい内容は報告書をご覧になっていただければと思います。

5月21日の三島市の国際交流フェアには、例年通り焼き鳥や清涼飲料水の販売を行いました。今回は台湾に行った中学生、ご家族たちもお見えになり、焼き鳥の販売などを手伝っていただきました。焼き鳥の仕入れに関しては元会員の瀬川さんのご厚意により大変安く仕入れることができました。剰余金が出ましたので、全額をスマイルさせていただきました。

会員の皆様、委員の皆様のご指導ご協力のおかげで一年間無事活動を終えることができました。

あらためて感謝申し上げます。

ロータリー財団米山委員会

副委員長 柴崎恵子君

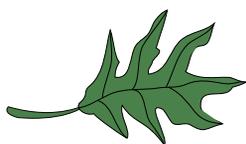
ロータリー財団特別寄付を4,550ドル頂きました。

米山奨学金の寄付を510,000円頂きました。

多大なご寄付をありがとうございました。

おめでとう

入会記念日 亥角君、前田(房)君、
柴崎君、田熊君
奥様誕生日 亥角君、佐野君、三田君



スマイルボックス

- ◆藤江君、栗原会長はじめ、理事役員の皆様、またメンバーの皆様1年間ありがとうございました。特に副幹事の宇田川様には私以上に、幹事としてふるまっていたこと、感謝申し上げます。今年度、幹事としての役目を果たせず、大変ご迷惑をかけたにも関わらず、皆様方に温かく見守っていただき感謝申し上げます。今年度もあと3回となりました。来週は議会のため欠席いたします。原さんすみません。来週は宇田川様に任せ、サヨナラ例会でお会いいたしましょう。最後の最後までダメな幹事ですが、感謝を込めてスマイル致します。
- ◆宇田川君、過日、銀行のゴルフコンペで優勝しちゃいました。今日はうれしいスマイルです。
- ◆柴崎君、ロータリーの友「パズルdeロータリー」に応募し、当選いたしました。ロータリーの友5月号44ページに発表されました。オリジナルUSBメモリーをゲットしました。皆さんも応募してみてください。

ROTARY NEWS

ビル・ゲイツ氏、ポリオ撲滅まで最後の一押しを強調

6月12日にロータリー国際大会で講演したビル・ゲイツ氏は、ポリオのない世界に向けた大きな進歩と今後の課題を強調しました。米国ジョージア州アトランタのジョージア・ワールド・ kongress センターにて、ゲイツ氏は、LEDブレスレットを着用した22,000人以上の観衆に向け、ポリオ症例をゼロにするための努力を続けなければならないと訴えました。ビル&メリンダ・ゲイツ財団の共同会長であるゲイツ氏は、世界ポリオ撲滅推進活動(GPEI)を「世界でこれまでに行われた最も野心的な公衆衛生の取り組み」とし、これまでの歴史的マイルストーンを振り返りました。各地域のポリオフィア宣言を含め、マイルストーンごとに、会場の各セッションでLEDブレスレットが点灯。ブレスレットを着用した出席者もプレゼンテーションの一部となりました。全世界でこの麻痺疾患を撲滅するため、革新的かつ先見的な役割を果たしてきたロータリーに感謝する、とゲイツ氏。「ロータリーは、揺るぎない目標意識して全身全霊で力を注げば何でもやり遂げられるという信念でポリオ撲滅の基盤を築いてきました」GPEIの取り組みが始まって以来、ポリオ症例は年に約35万件から99.9%減と驚異的に減少。いまだ野生型ポリオウイルスが常在するのは、アフガニスタン、ナイジェリア、パキスタンの3カ国のみです。これまでの撲滅活動がなければポリオを患ったであろう1600万人以上が、今日、麻痺の影響を受けずに歩くことができると指摘。「これほどの活動努力は驚異的」とゲイツ氏は付け加えました。ゲイツ氏は続けます。「ポリオ撲滅は私が最も多くの時間を費やしていることであり、毎日、新しい発症例があるかどうかをメールでチェックしています。私は、この大きな活動の一部であることを誇りに、そして光栄に思っています」同日の本会議の直前、世界各国の指導者がゲイツ財団とロータリーに加わり、ポリオ撲滅を達成するためにGPEIが見積もる活動不足金15億ドルを補うため、新たな寄付誓約を発表しました。

ロータリーは、寄付目標を年間5000万ドルに引き上げると発表。ゲイツ財団とロータリーは2007年に協力を開始して以来、ポリオ撲滅に向けてともに約15億ドルを提供しています。ポリオ撲滅を過去10年間の最優先課題としてきたと話すゲイツ氏は、現在もポリオが発症している紛争地域において未だに課題が残っていることを認識しています。「最も困難なことの一つは、一人残らずすべての子どもたちにポリオワクチンを届けること。しかし、紛争地域ではあらゆる関係者と信頼を築くことが難しく、予防接種が容易には進みません」しかし、依然として紛争問題を抱えるアフガニスタンにはほとんどウイルスがないことを指摘。「ポリオを撲滅する唯一の方法は、政治的、宗教的、社会的な分裂を超えて協力すること。ポリオ撲滅活動の支援者がその説得を続けてきたからこそ、今、成果が表れています」発症数がかつてないほど少ない一方で、ウイルスのサーベイランス(監視)と検出が困難になっています。「ウイルスを完全に食い止めるには、どこに隠れているのかを知る必要がある」とゲイツ氏。「新しいアイデアを生み出し、教訓を学び、新しい状況に適応していったからこそ、ポリオをゼロにできると確信しています」全世界で146の研究所のネットワークが、毎年、約20万件のポリオウイルス検便検査を行っており、その99.9%が陰性です。陽性結果はほんの一部ですが、保健当局が予防接種活動に集中してウイルスの感染を防ぐのに役立っています。

ポリオ撲滅活動に触発されたイノベーションは、ほかの世界的な健康キャンペーンに幅広い利益をもたらすことができる、とゲイツ氏。「それこそ、ロータリーの30年にわたる闘いで大きく期待が持てることです。皆さんは、史上最悪の疾病の一つを撲滅するだけではありません。最貧国が市民により良い健康とより良い未来を提供するのも支援しているのです」

(週報担当:佐野宏三)